佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集

ISENARABIJYOUSEKI

石　並　城　跡

長野県佐久市大字岩村田石並城跡発掘調査報告書

1992.3

佐久市教育委員会

佐久埋蔵文化財調査センター

佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集

ISENARABIJYOUSEKI

石　並　城　跡

長野県佐久市大字岩村田石並城跡発掘調査報告書

1992.3

佐久市教育委員会

佐久埋蔵文化財調査センター

例　　言

1　本書は、平成２年度森泉建設工業株式会社が行う宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　調査委託者　　森泉建設工業株式会社

3　調査受託者　　佐久市教育委員会

4　発掘調査所在地籍及び面積

石並城跡（ＩＩＪ）　佐久市大字岩村田字石並3503外　976㎡

5　調査期間

1）発掘調査（現場）　平成２年12月13日～平成３年１月11日

2）整理調査（室内）　平成４年１月６日～３月27日

6　事務局及び調査団の構成

（事務局）　佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

平成２年度

教　育　長　大井季夫　　教育　次長　小池八郎

開発公社局長　須江吉介　　課長兼所長　相澤幸男

管　理　係　桜井牧子（係長）・東城公人・田島清巳（嘱託）・関口美咲（臨時）

埋蔵文化財係　相澤幸男（係長兼務）・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小山岳夫・小林眞寿・羽毛田卓也・翠川泰弘・竹原学・助川朋広

（調査団）

団　　長　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副　団　長　藤沢平治（佐久市文化財審議委員）

調査担当者　高村博文

調査補助員　遠藤しずか・並木ことみ・星野良子・香山優子

協　力　者　甘利亘・星野重一・小林和義・小林永一・柳沢時枝・長岡喜代人・倉沢聡

平成３年度

教　育　長　大井季夫　　教育　次長　奥原秀雄

開発公社局長　佐々木正泰　　課長兼所長　上原正秀

管　理　係　桜井牧子（係長）

埋蔵文化財係　草間芳行（係長）・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・小林眞

寿・羽毛田卓也・竹原学

（調査団）

団　　長　　黒岩忠男（佐久考古学会副会長）

副 団 長　　藤沢平治（佐久市文化財審議委員）

調査担当者　　高村博文

調 査 員　　香山優子・小林よしみ

7　本書の編集は高村博文・香山優子が、執筆はすべて高村が行った。

8　本書及び出土遺物等の全資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

9　現地の調査において、円満寺を初め地元の方々にご協力をいただいた。また、陶磁器については長野県埋蔵文化財センター調査研究員市川隆之氏の助言を得た。記して感謝の意を表します。

目　　次

例言・目次
第Ⅰ章　発掘調査の経緯……1
　第1節　発掘調査に至る動機……1
　第2節　調査日誌……2
第Ⅱ章　遺構と遺物……2
　第1節　基本土層及び検出遺構・遺物の概要……2
　第2節　城跡関連遺構……3
　第3節　竪穴住居址……4
第Ⅲ章　調査のまとめ……17
写真図版

挿図目次

第1図　石並城跡の位置……1
第2図　基本土層模式図……2
第3図　石並城跡発掘区と周辺航空測量図…5
第4図　遺構全体図……7
第5図　第1号堀址実測図……9
第6図　第2号堀址実測図……10
第7図　第3号堀址実測図……11
第8図　第1号溝状遺構実測図……11
第9図　第1・2号土坑、ピット実測図……12
第10図　H1号住居址実測図……13
第11図　H2号住居址実測図……14
第12図　H2号住居址出土土器実測図……14
第13図　第3号土坑実測図……15
第14図　第4号土坑実測図……15
第15図　混入土器実測図……15

付表目次

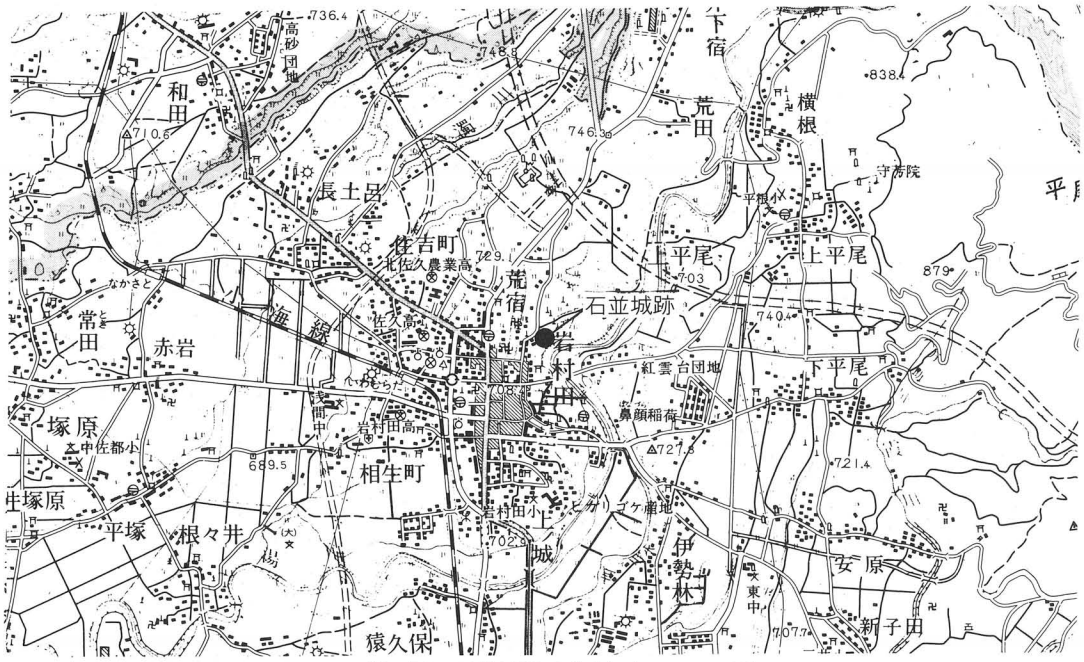
第1表　堀址・溝状遺構一覧表……10
第2表　H2号住居址出土土器観察表……13
第3表　混入土器観察表……15
第4表　土坑・ピット一覧表……16
第5表　住居址一覧表……16

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機

石並城跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高716～726ｍを測る。城跡は蛇行しながら南流する湯川の西岸の第２段丘上に北から石並城跡・王城跡・黒岩城跡とほぼ直線的に南北に連なって大井城跡を形成している。大井城跡は佐久市有数の城跡であり、王城跡・黒岩城跡は県の史跡に指定されている。当教育委員会は、この石並城跡をなんとか現状保存することを考え、一度は宅地造成の計画を長野県教育委員会文化課の指導のもとに協議し、開発を思いとどまらせることができたが、再度、森泉建設工業株式会社により開発の計画が持ち上がった。

今回、森泉建設工業株式会社が計画している宅地造成地区は、石並城跡の外郭に当たるものと考えられる。また、当該地は岩村田遺跡群内に含まれていることから弥生時代から平安時代の遺構の存在している可能性も高く、国庫補助金で全面試掘を実施し、遺構の存在が確認されたため森泉建設工業株式会社と保護協議を行い、発掘調査を実施することになった。



第１図　石並城跡の位置（１：50,000）

第２節　調査日誌

平成２年12月13・14日　　国庫補助金により試掘調査を実施し、遺構の存在を確認した。

12月20日～平成３年１月11日　　試掘調査の結果を受けて発掘調査を実施する。

平成４年１月６日～３月27日　　室内にて報告書作成作業を行い全調査を完了する。

第Ⅱ章　　遺構と遺物

第１節　基本土層及び検出遺構･遺物の概要

１）基本土層

石並城跡が存在する地域は、三貫畑遺跡発掘調査報告書の遺跡の環境で述べたように、佐久市北部にあたり、約13,600年前の第二次外輪山前掛火山の長期にわたる火山活動により形成された第１軽石流（Ｐ１）の堆積地域である。東側は、湯川により浸食されてできた、断崖絶壁で河床からの比較差は約30数ｍもある。

遺構検出の際、表土及び耕作土を取り除くと、この第１軽石流（Ｐ１）が存在し、今回の発掘調査により確認された全遺構は、この第１軽石流（Ｐ１）直上においてであった。基本的な土層として、Ｈ１号住居址北側南面セクションを北部の、第２号堀址西側東西セクションを南部のモデルとして抽出し、第２図に示した。

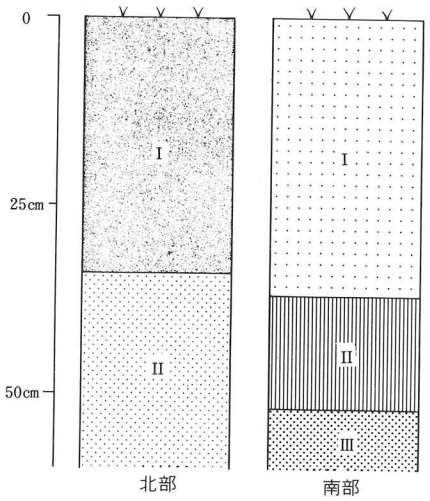
北　　部　土層説明

第Ⅰ層　暗褐色土（10YR3/4）　粘性なし、耕作土。

第Ⅱ層　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　ローム層　（Ｐ１）。

南　　部　土層説明

第Ⅰ層　褐色土(10YR4/4)　耕作土。



第２図　基本土層模式図

第Ⅱ層　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　耕作土。

第Ⅲ層　橙色土(7.5YR7/6)　ローム層（Ｐ１)。

2）検出遺構・遺物の概要

検出遺構

城跡関連遺構	堀址３条、溝状遺構１条、土坑４基？、ピット13基？
竪穴住居址	弥生時代？（Ｈ１号住居址)、古墳時代後期（Ｈ２号住居址)
その他	現代の室２基

出土遺物

土　　器	弥生土器、土師器、近世・近代陶磁器

第２節　城跡関連遺構

1）堀址

堀は今回の調査で３条検出されている。また、発掘区の東側縁辺部には、石並城の本体を区画する南北方向に伸びる大きな堀が走っている。第３号堀址は、この大きな堀より分かれて、やはり南北方向に、並走して構築されており、第２号堀址も、接合部分は調査区外のため確認できなかったが、この本体を区画する大堀より分かれて、南北方向から東西方向へ変曲しながら構築されていることが判明した。第１号堀址は発掘区の西端で検出され、大堀と平行して南北方向に構築されている。断面の土層観察では、いずれも自然堆積的であり、堀底面付近に、砂礫層がみられ、第１表にあるように、どの堀址も北方向から南方向に向かって低く傾斜しており、水が北から南に向かって相当量流れたものと判断できる。

出土遺物は、混入遺物として、弥生土器・土師器等が出土しており、陶磁器類は近世以降の瀬戸・美濃系陶磁器が出土しているものの堀址の構築年代を推定する資料かどうか判然としない。

2）溝状遺構

第１号溝状遺構は第３号堀址の約５ｍ西側を並走し、北から南に向かって溝底面が傾斜しており、第２号堀址にぶつかっている。第２号土坑と重複関係にあり、第２号土坑により破壊されている。

土層断面の観察により、西側にやや浅い落ち込みがみられ、東側は深くＶ字形に落ち込んでお

り、南側で検出された溝幅は、南側部分がより深く耕作土で攪乱されていたため、西側部の浅い堀り込みは、破壊されていると解釈できる。

出土遺物は、堀址と同様、混入遺物として弥生土器・土師器等があり、陶磁器は近世以降の瀬戸・美濃系陶磁器が出土している。

断面形状・平面形態などから本溝状遺構は、第3号堀址と関連が推測でき、石並城跡外郭部の関係施設と考えられる。

3）土坑及びピット

本城跡からは、土坑4基とピット13基が検出されているが、城跡との関連は不明な部分が多く（後世の攪乱も含まれているものと考えられる）基礎資料として実測図と一覧表を提示しておくにとどめる。

第3節　竪穴住居址

1）H1号住居址

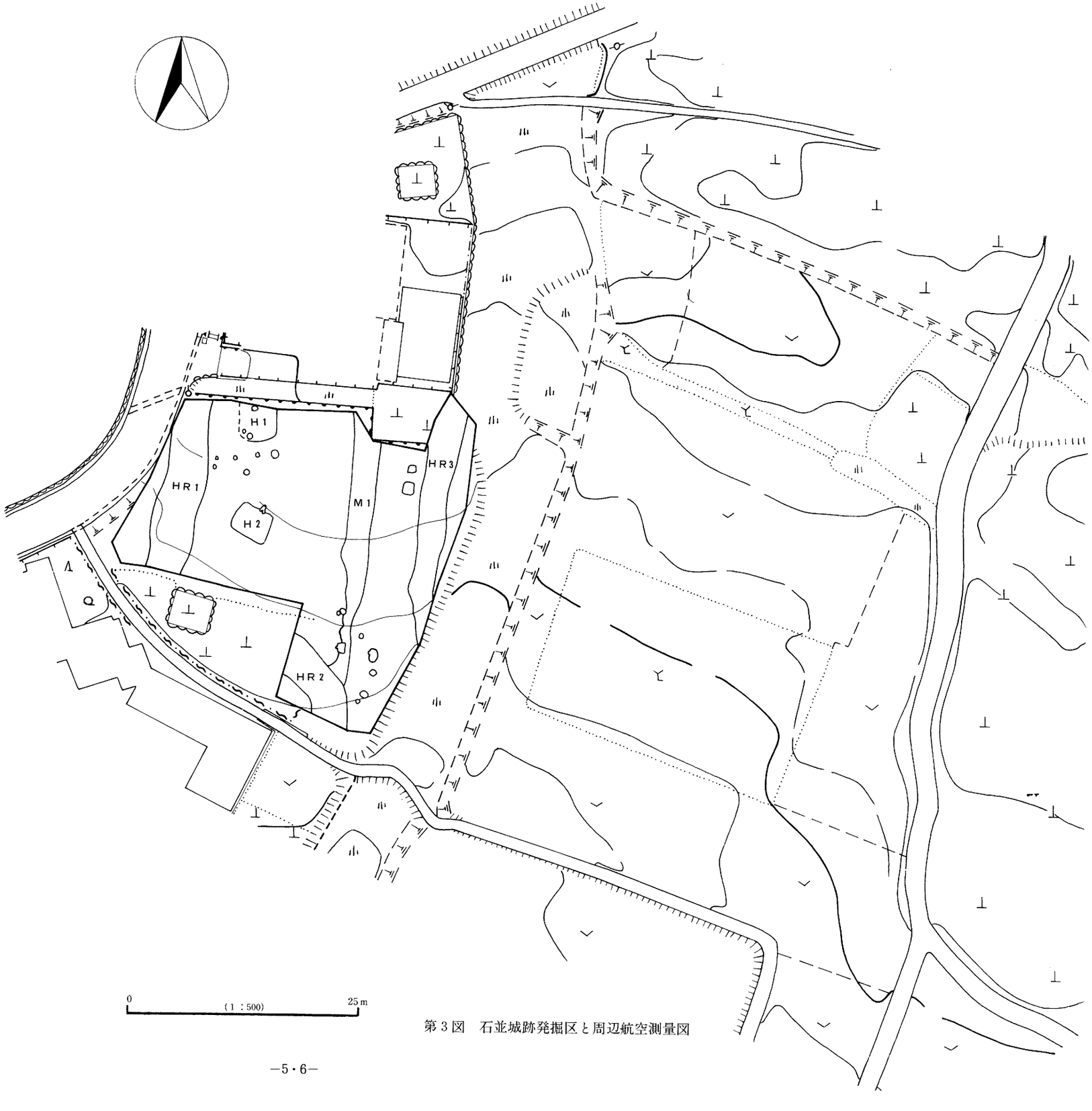
本住居址は、G・H—6・7グリッド内より検出された。北側が調査区外、西側は耕作土に削平されていて全容は検出されず、東壁と南壁半分ほどが残存していたにすぎない。ピットは2基検出され、P_1は主柱穴とみられ、P_2は入口部施設に関連した柱穴かもしれない。床面は東壁付近に貼床の固い部分が存在した。

出土遺物は、弥生土器小片が数片出土したのみで、所産期については不明である。

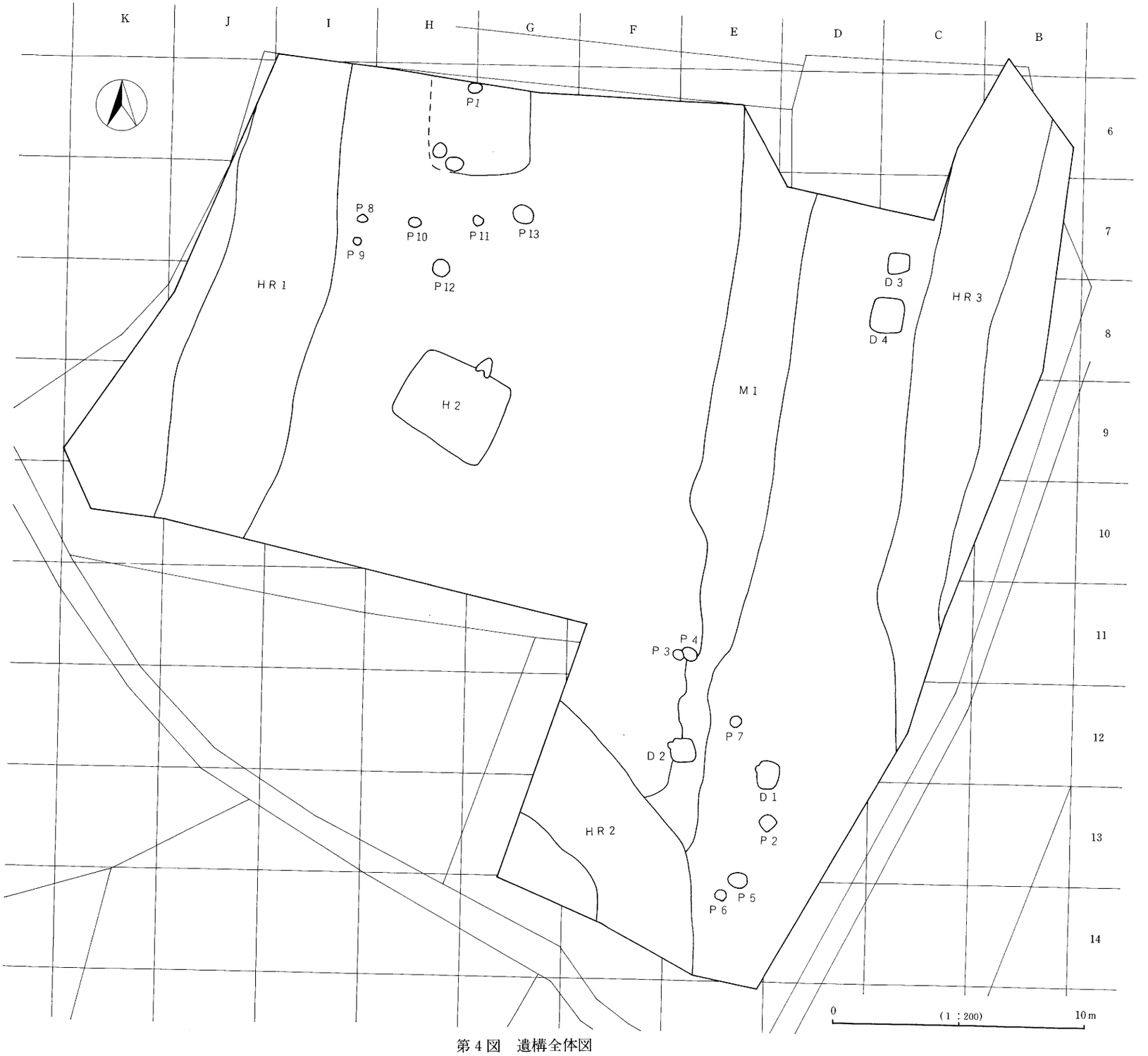
2）H2号住居址

本住居址は、G・H—9・10グリッド内より検出された。北壁の両隅に攪乱があるものの全容は検出された。カマドは北壁中央やや東寄りに構築されており、破壊が著しい。ピットは2基存在したが、P_2のピットは掘り込みが浅く主柱穴らしく思われないが、左右対称の位置にあり、P_1・P_2とも主柱穴の可能性が高い。平面形態は南方に広がる隅丸台形を呈しており、規模等については第5表を参照されたい。

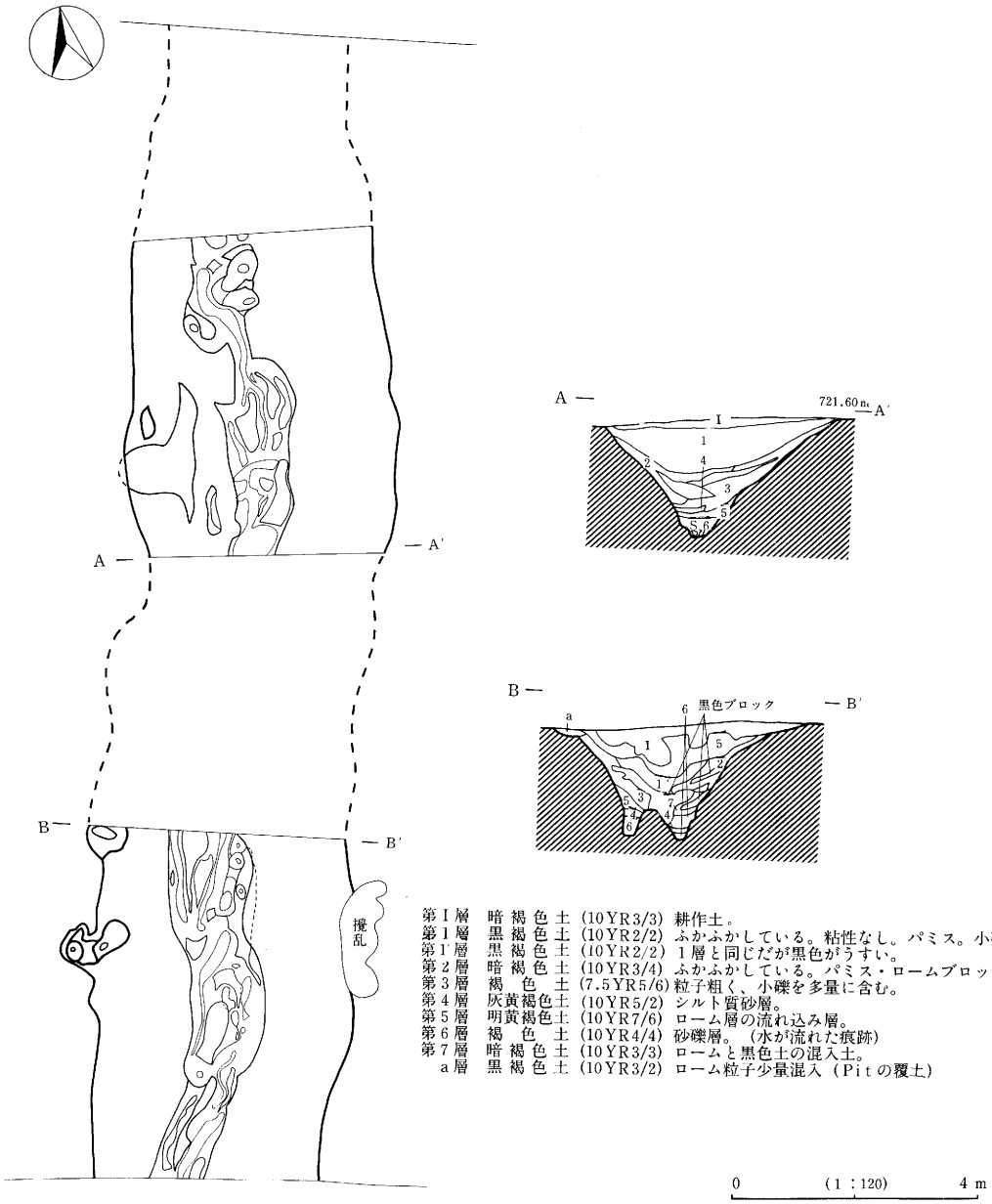
出土遺物は図示できたものに土師器6点がある。長胴甕は図示できなかったものの器肉が厚く、いわゆる武蔵甕ではないタイプのもので、坏もいわゆる須恵器模倣坏であり、古墳時代後期と考えられる。



第３図　石並城跡発掘区と周辺航空測量図

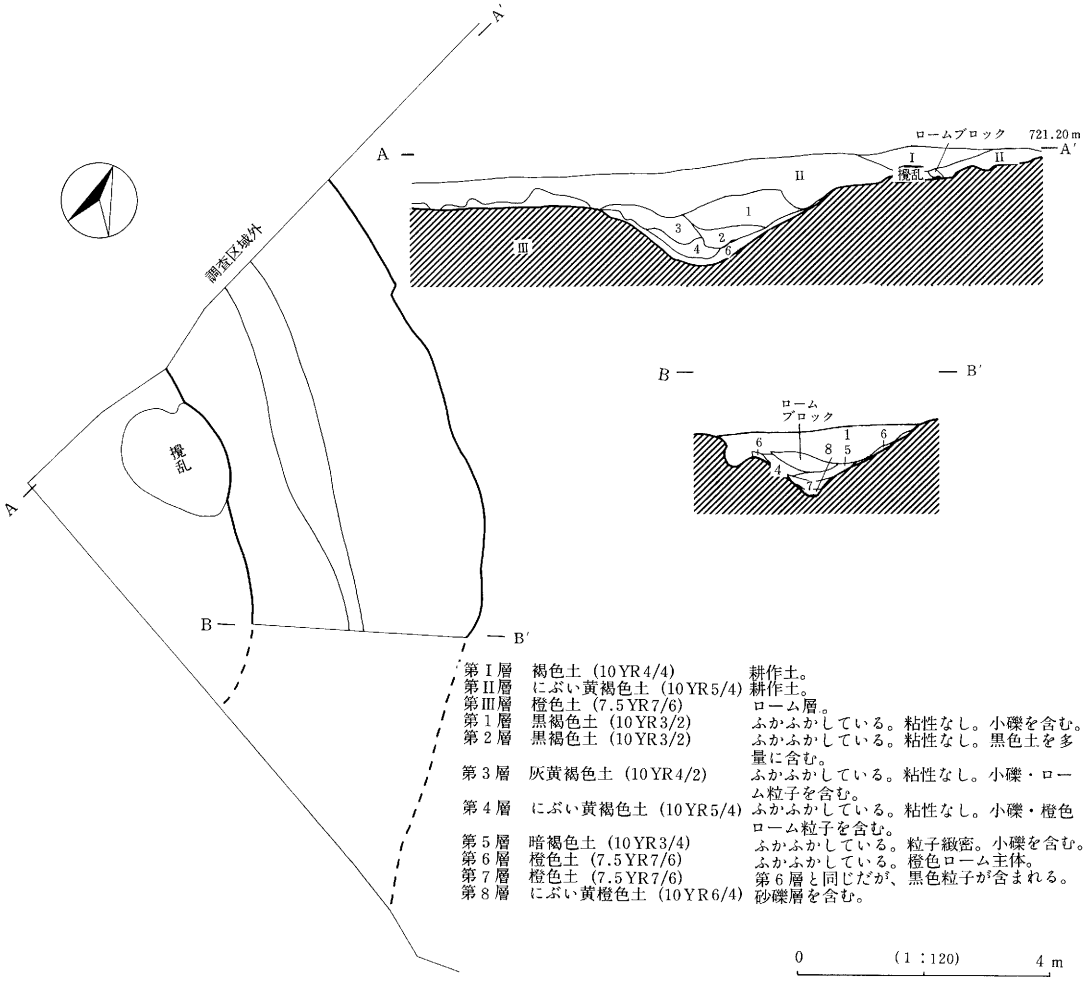

K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
6
7
8
9
10
11
12
13
14
P1
P8
P9
P10
P11
P12
P13
HR1
H2
M1
D3
D4
HR3
P3
P4
D2
P7
D1
P2
HR2
P5
P6
0
(1 : 200)
10m

第4図　遺構全体図



第Ⅰ層　暗褐色土（10YR3/3）耕作土。
第1層　黒褐色土（10YR2/2）ふかふかしている。粘性なし。パミス。小礫を含む。
第1層　黒褐色土（10YR2/2）1層と同じだが黒色がうすい。
第2層　暗褐色土（10YR3/4）ふかふかしている。パミス・ロームブロックを含む。
第3層　褐色土（7.5YR5/6）粒子粗く、小礫を多量に含む。
第4層　灰黄褐色土（10YR5/2）シルト質砂層。
第5層　明黄褐色土（10YR7/6）ローム層の流れ込み層。
第6層　褐色土（10YR4/4）砂礫層。（水が流れた痕跡）
第7層　暗褐色土（10YR3/3）ロームと黒色土の混入土。
a層　黒褐色土（10YR3/2）ローム粒子少量混入（Pitの覆土）

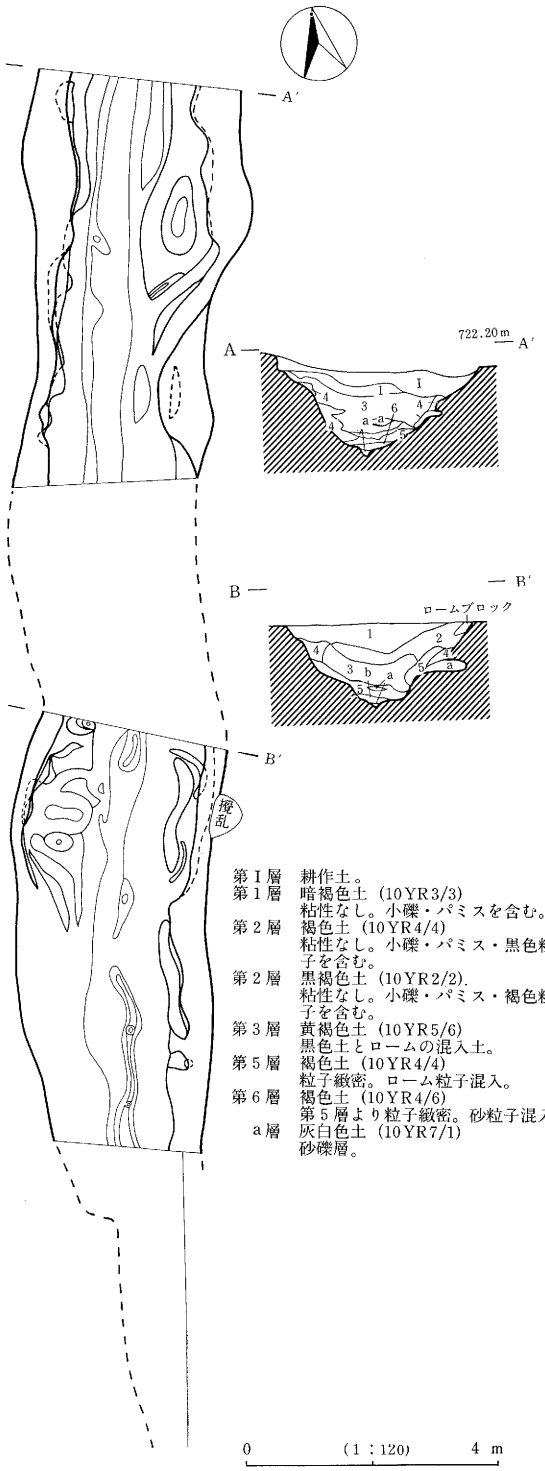
第5図　第1号掘址実測図



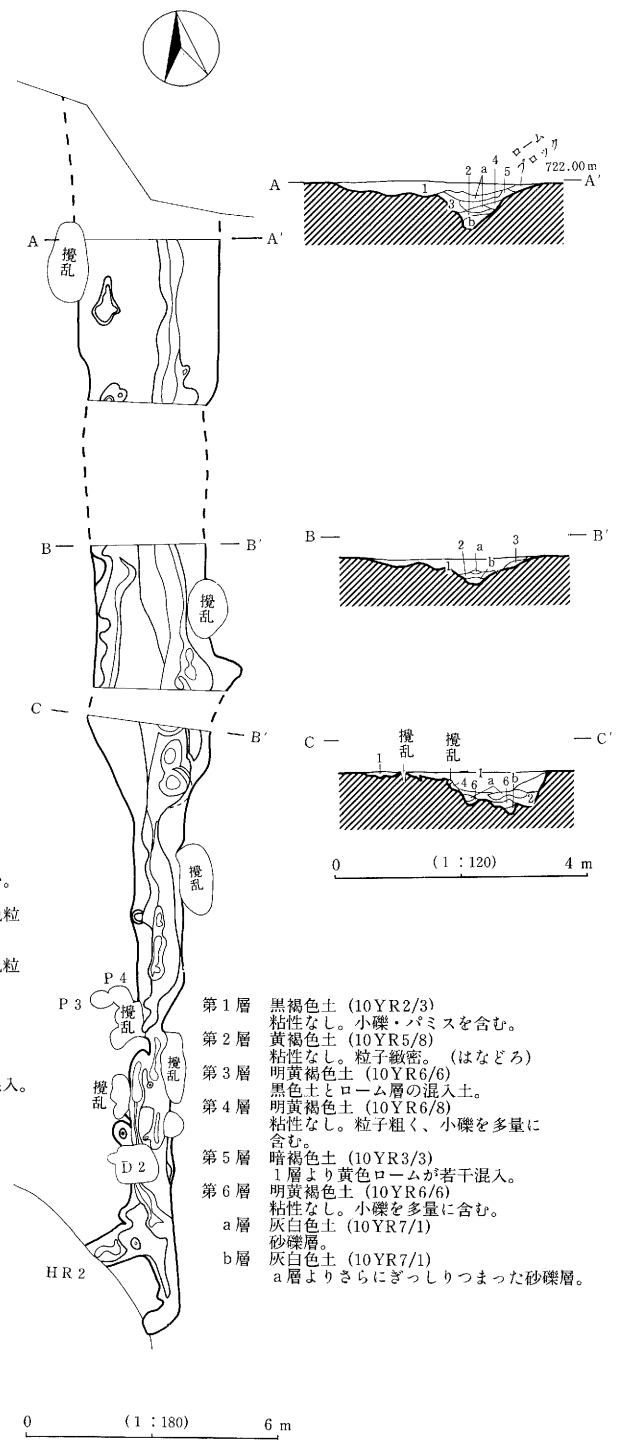
第６図　第２号堀址実測図

第１表　堀址・溝状遺構一覧表

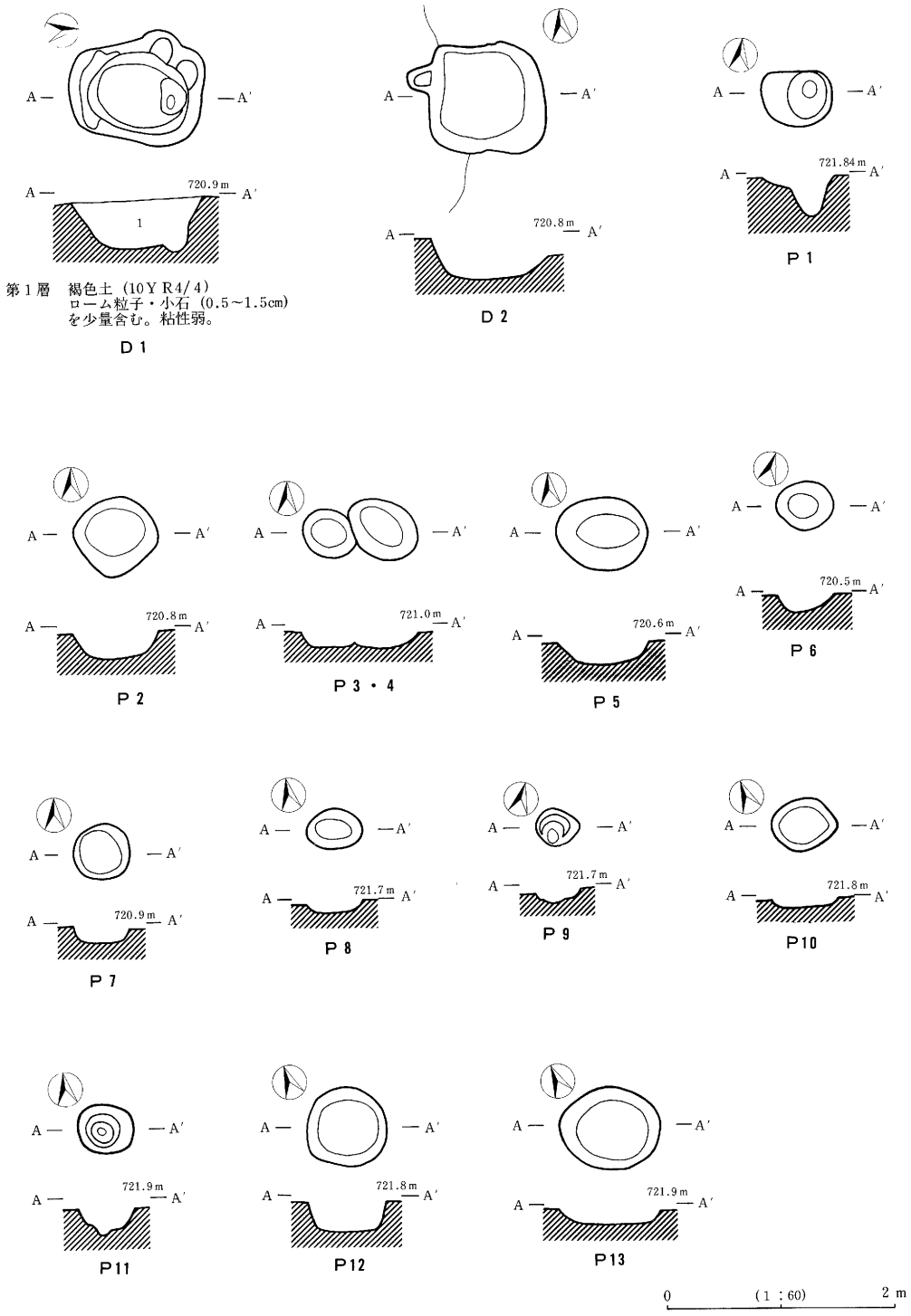
遺構	検出位置	長さ(検出長)	幅(cm)	深さ(cm)	断面形状	比高差	備　　考
堀１	Ⅰ～K－５～10	18m60cm	362～440	163～232	V字形	南方へ－71cm	
堀２	E～G－12～14	11m54cm	340～384	88.5～119.5	V字形	東南へ－14cm	
堀３	B・C－５～12	22m30cm	230～325	101～138	V字形	南方へ－28cm	
M１	D～F－６～13	27m70cm	80～330	5～ 64	⌣形	南方へ－87cm	D２と重複し、D２に破壊されている。



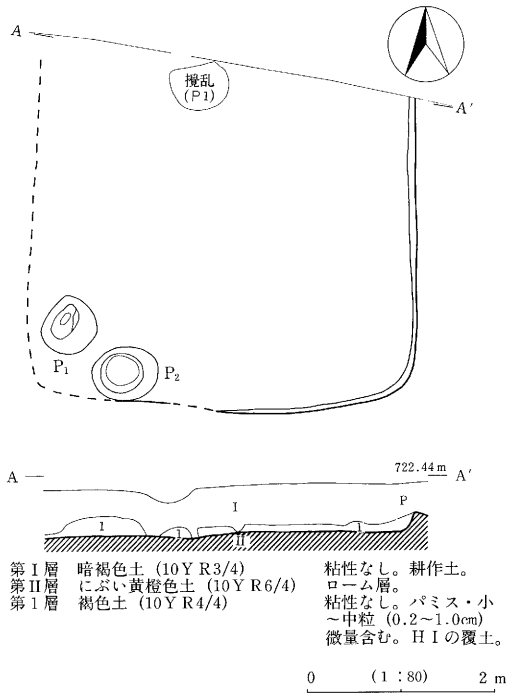
第7図　第3号堀址実測図



第8図　第1号溝状遺構実測図



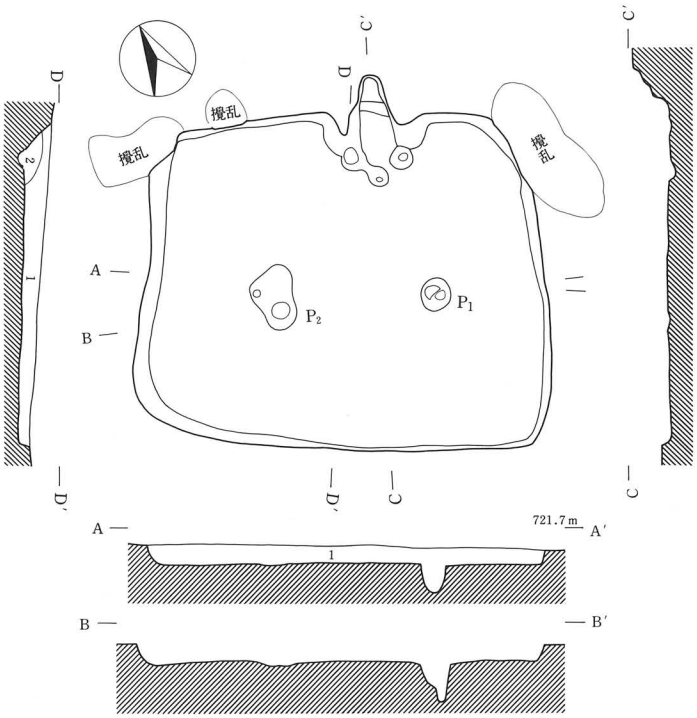
第9図　第1号・第2号土坑・ピット実測図



第10図　H1号住居址実測図

第2表　H2号住居址出土土器観察表

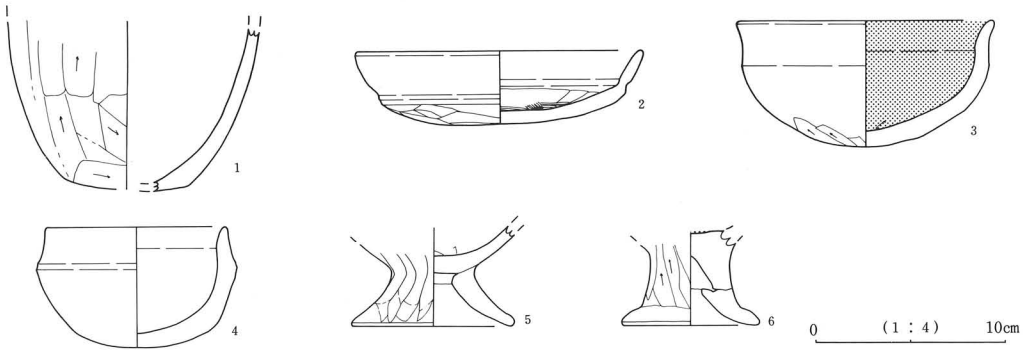
挿図番号	器種	法量（cm）	成形及び器形の特徴	調整	備考
12－1	小形甕？	底径（6.5）	底部平底に近い丸底。底部中央付近が欠損していて不明であるが、甑かもしれない。	内）ていねいなヘラナデ。 外）縦位のヘラケズリ。	胴下部～底部1/3残存　回転実測 カマド、Ⅰ・Ⅳ区。焼成良好 色調 内）7.5YR5/4（にぶい褐色） 外）10YR7/4（にぶい黄橙色） 断）7.5YR6/4（にぶい橙色）
12－2	坏	口径　15.2 底径　・ 器高　3.4	丸底。いわゆる須恵器模模倣坏。	内）口縁部付近ヨコナデ。底面付近ていねいなヘラミガキ。 外）口縁部付近ヨコナデ。稜より下部はヘラケズリ。	ほぼ完形。完全実測。No.14・Ⅲ・Ⅳ区 色調　2.5YR6/6（橙色） 焼成良好
12－3	塊	口径（13.5） 底径　・ 器高　6.7	口縁部に稜を有する。 丸底。	内）雑な黒色処理。 外）口縁部付近ヨコナデ。底面ヘラズリ。	No.9　約1/3残存。　回転実測。 焼成不良。 色調　内）10YR1/4（褐灰色） 外・断）7.5YR7/4（にぶい橙色）
12－4	塊	口径（9.6） 底径　・ 器高　6.3	平底に近い丸底。口縁部、稜をもって内傾する。	内）口縁部付近ヨコナデ。 外）口縁部付近ヨコナデ。	口～底部1/2残存。　回転実測。 焼成普通。　Ⅱ・Ⅳ区 色調　内）10YR7/4（にぶい黄橙色） 外）10YR8/3（浅黄橙色）
12－5	台付甕	脚着地径 8.5	底部に脚部をそのままはりつけ。	内）横位のヨコナデ。脚部付近ヨコナデ。 外）縦位のヘラケズリ。	脚部完形。　回転実測。 焼成良好。　No.6 色調　内・外）5YR7/4（にぶい橙色） 断）5Y7/1（灰白色）
12－6	高坏	脚着地径（7.3）	杯部から脚部に柱状に製作し、その下部に外反して脚部下部を貼りつけてある。	内）杯部内面、黒色研磨。脚部内面ヨコナデ。 外）脚部柱状部縦位のヘラケズリ。その下部ヨコナデ。	Ⅱ区　約1/2残存　回転実測。 焼成良好 色調　内）10YR1.7/1（黒色） 外）7.5YR6/4（にぶい黄橙色） 断）10YR6/4（　〃　）



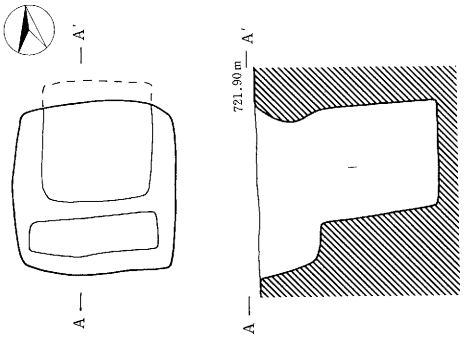
第１層　褐色土（10YR4/4）　黒色土・ローム混入土。
第２層　黄褐色土（10YR5/6）　粘性なし。小礫・パミスを含む。

0　（1：80）　2 m

第11図　Ｈ２号住居址実測図



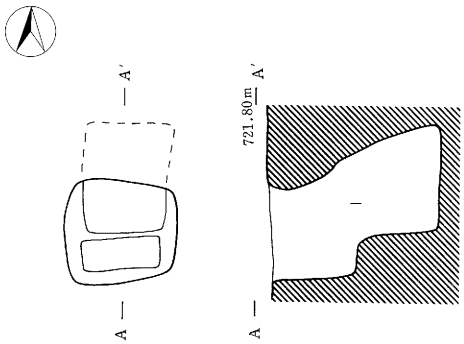
第12図　Ｈ２号住居址出土土器実測図



第１層　橙色土（2.5YR6/8）ローム層の埋土。

0　(1：60)　1m

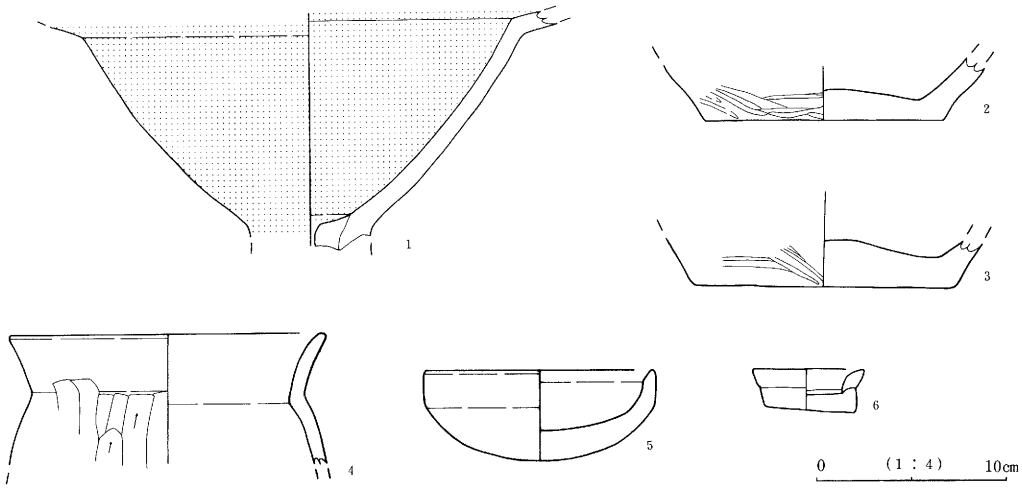
第13図　第３号土坑実測図



第１層　橙色土（2.5YR6/8）ローム層の埋土。

0　(1：60)　1m

第14図　第４号土坑実測図



第15図　混入土器実測図

第３表　混入土器観察表

挿図番号	器種	法量（cm）	成形及び器形の特徴	調整	備考
15－1	高坏		坏部は、逆「ハ」の字状に大きく開き、口縁部付近で屈曲して外傾する。	内・外面とも赤色塗彩。	堀１出土。　完全実測。 焼成良好。 色調　内・外）7.5R4/8（赤色） 断）7.5YR8/3（浅黄橙色）
15－2	壺	底径（12.4）	平底。	内）ハケメ調整がみられる。 外）胴下部へラミガキ。	Ｈ２住№５出土。　回転実測。 焼成良好。 色調　内）10YR8/4（浅黄橙色） 外）7.5YR7/4（にぶい橙色） 断）10YR8/3（浅黄橙色）
15-3	壺	底径（14.2）	平底	外）胴下部へラミガキ	堀１出土　回転実測 焼成普通 色調　内）10YR8/4（浅黄橙色） 外）5YR7/6（橙色） 断）10YR7/4（にぶい黄橙色）

15－4	甕	口径（16.6）	胴が張らない。武蔵甕的調整だが、器肉は厚い。	内）口縁部付近ロクロヨコナデ。 外）口縁部付近ロクロヨコナデ。胴部縦位のヘラケズリ。	堀1出土　回転実測 焼成良好 色調　内）7.5YR6/6（橙色） 外）2.5YR5/4（にぶい赤褐色） 断）2.5YR5/6（明赤褐色）
15－5	杯	口径（12.2） 底径　・ 器高　4.7	丸底。口辺上部に稜をもつ。	内）ていねいなヘラミガキ。 外）器面が荒れているが、ヘラケズリと思われる。	堀1出土　回転実測 焼成良好 色調　内）10YR7/4（にぶい黄橙色） 外）10YR7/3（　〃　） 断）10YR7/2（灰白色）
15－6	手捏	口径　5.9 底径　4.7 器高2～2.3	2段の粘土紐により成形されている。	内・外面とも指頭による調整。	堀3出土　完形？　完全実測 焼成良好 色調　内・外）2.5YR8/4（淡黄色）

第4表　土坑・ピット一覧表

遺構	検出位置	平面プラン（cm）			長軸方向	断面形	深さ（cm）	備考
		長径	短径	形態				
D1	D・E－12・13	117	92		N－46°－W		46.5	
D2	E－12	126	97		N－70°－W	逆台形	39.0	
P1	G・H－6	65	52		N－67.5°－W		33.5	H1号住内
P2	D・E－13	74	70		N－89°－W	逆台形	25.5	
P3	E－11	66	51	楕円形	N－61°－W	皿状	16.0	P6と接する
P4	E－11	50	41	楕円形	N－72°－W	逆台形	17.0	P5と接する
P5	E－13・14	80	63	楕円形	N－87°－W	逆台形	22.0	
P6	E－14	50	42	不整楕円形	N－71°－E	U字形	15.5	
P7	E－12	48	48	円形	N－90°	逆台形	16.0	
P8	I－7	48	36	楕円形	N－80°－W	皿状	11.0	
P9	I－7	38	32	不整円形	N－73°－E		13.0	
P10	H－7	58	45	不整楕円形	N－68°－W	皿状	9.0	
P11	G－7	48	42		N－85°－W		24.0	
P12	H－7・8	70	68	円形	N－22°－E	逆台形	28.0	
P13	G－7	88	72	楕円形	N－67°－W	逆台形	17.0	

第5表　住居址一覧表

遺構	検出位置	平面プラン及び規模	壁残高（cm）	付属施設	時期	備考
H1	G・H－6・7	南壁長（380cm）	0～10	主柱穴1 入口施設関連柱穴1	弥生時代？	北側　調査区外 西側　耕作土により削平されている。
H2	G・H－9・10	東壁長324cm　西壁長266cm 南壁長394cm　北壁長324cm 東西長396cm　南北長336cmの 床面積12.7㎡ 主軸方向N－26°－E	9～33	北壁中央東寄りにカマド ピット2	古墳時代後期	

第Ⅲ章　調査のまとめ

今回、石並城跡において検出された遺構・遺物の詳細は前述した。検出された遺構は、堀址３条、溝状遺構１条、土坑４基、ピット13基、住居址２棟等であり、出土遺物は、弥生土器、土師器、近世・近代陶磁器である。

今回の調査は石並城跡の外郭部分にあたる約1000㎡弱の発掘調査であったが、地上（現地表面）ではうかがい知ることのできなかった堀址が幾重にも存在することが解明され、また、城跡として利用される以前も弥生時代～古墳時代にかけて集落址として、生活居住地域であったことが判明したのは大きな成果であった。

今後の地域研究の基礎資料として大変価値のある資料となろう。

図版一

1　石並城跡周辺航空写真

2　石並城跡周辺航空写真

3　石並城跡周辺航空写真

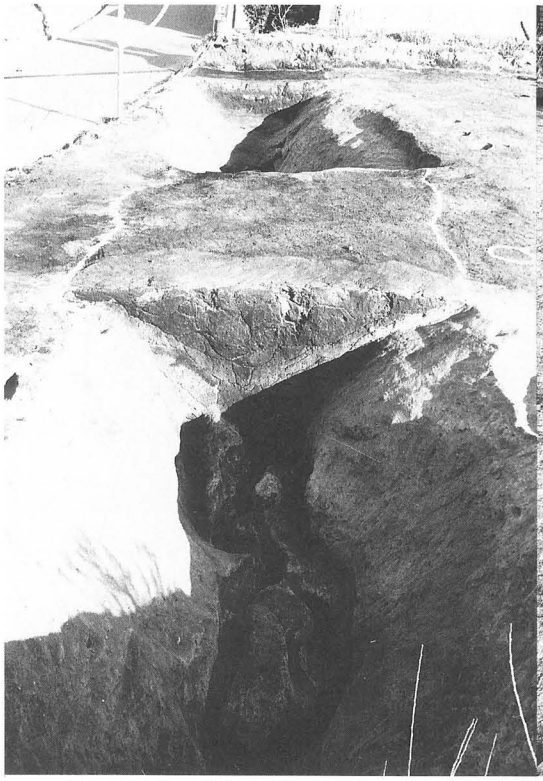
1　石並城跡遺構全景（南方より）

2　石並城跡遺構全景（南方より）

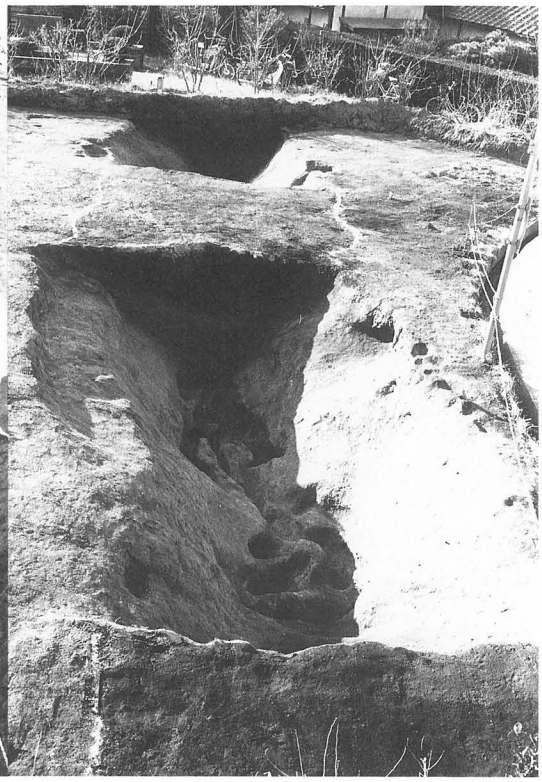
3　石並城跡遺構全景（南方より）

4　石並城跡遺構全景（南方より）

図版 五



1　第１号堀址（南方より）



2　第１号堀址（北方より）

3　第１号堀址セクション（北方より）

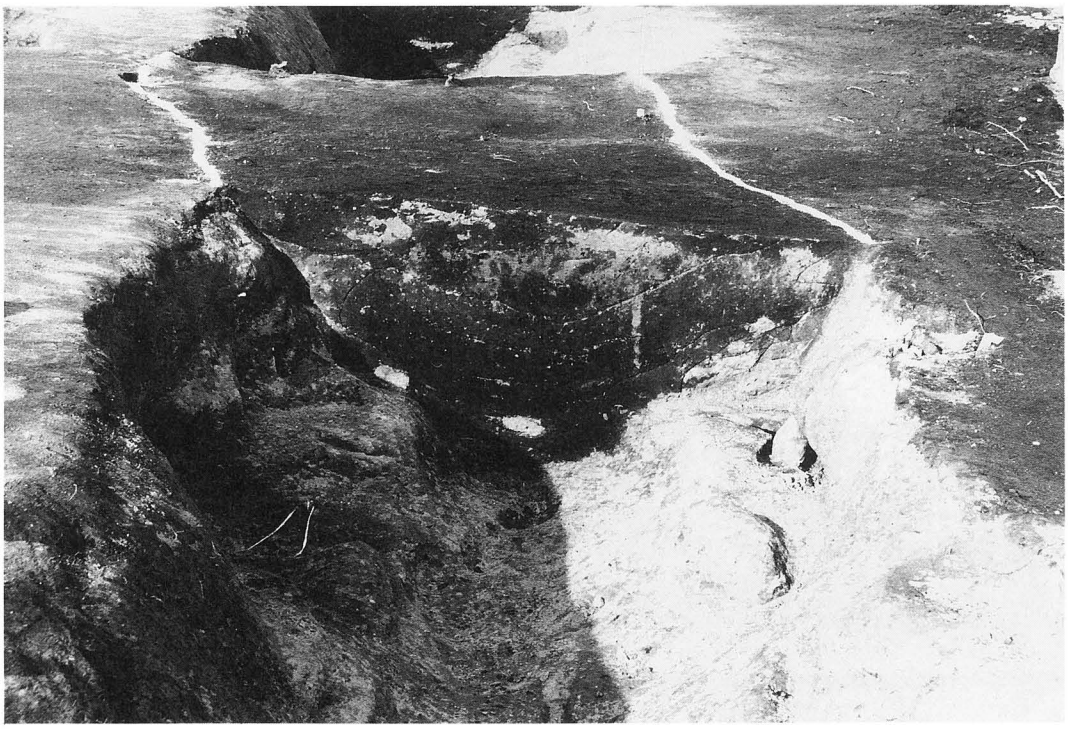
1　第２号堀址（東方より）

2　第２号堀址セクション（東方より）

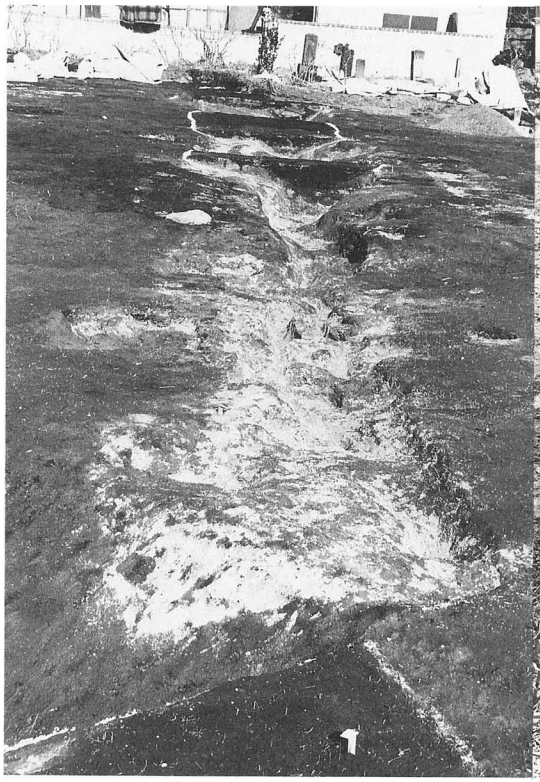
図版 七

1　第３号堀址（南方より）

2　第３号堀址（北方より）



3　第３号堀址セクション（南方より）

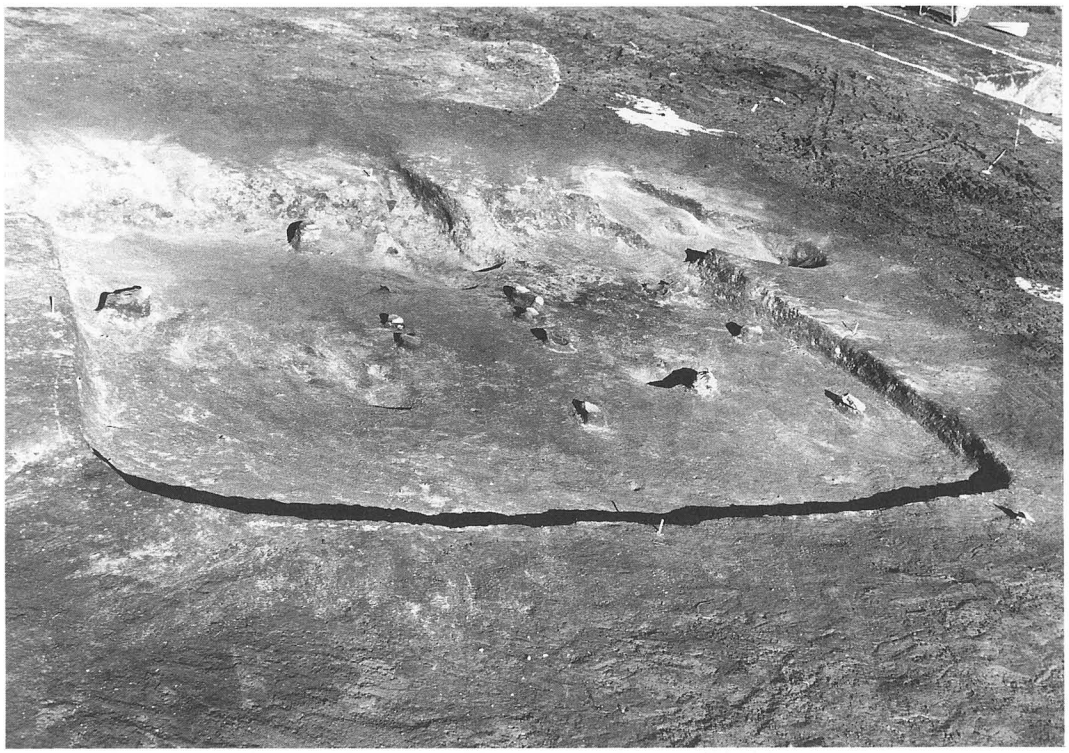


1　第１号講状道構（南方より）

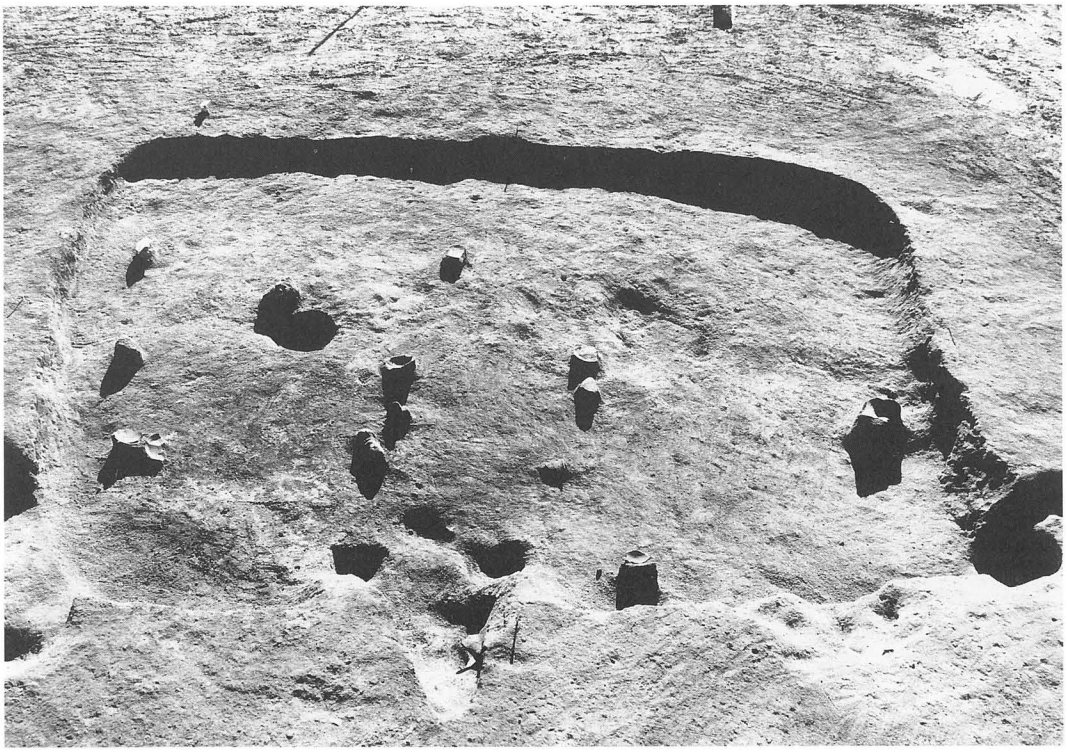
2　第１号講状道構（北方より）

3　Ｈ１号住居址（南方より）

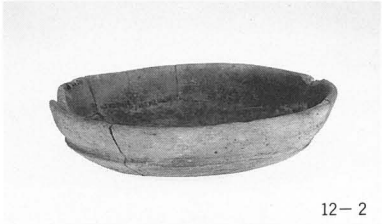
図版九



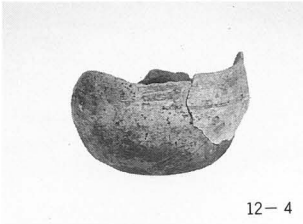
1　Ｈ２号住居址（南方より）



2　Ｈ２号住居址（北方より）

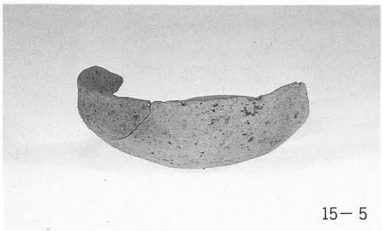


1　Ｈ２号住居址出土土器



2　Ｈ２号住居址出土土器

3　Ｈ２号住居址出土土器



4　混入土器

5　混入土器

6　調査団

長野県佐久市
佐久市埋蔵文化財調査報告書第16集
石　並　城　跡
平成4年3月
編集・発行　佐久市教育委員会
印　　刷　株式会社　櫟〈いちい〉